

導入事例 Case Study

クラウド型のビデオ会議サービスでコストを6割削減 高品質、手軽なスマートデバイス接続で面接や研修にも活用



教育・人材・介護事業などを展開するヒューマンホールディングス株式会社(以下、ヒューマンホールディングス)。同社は従来のビデオ会議システムを刷新し、教育・人材事業拠点を中心とする43拠点に「ホワイトクラウド ビデオカンファレンス」を導入しました。専用端末のほか、タブレット端末でもビデオ会議を行えるようになったこと、さらに映像や音声の品質が高まったことで用途が拡大。遠隔での採用面接もクオリティが向上しました。また、月額数百万円かかっていたコストも大幅に改善しています。



課題と効果



ヒューマンホールディングス
株式会社
総務部
マネジャー
内田 浩靖 氏

課題 既存のビデオ会議システムは、回線の帯域不足などから、映像・音声の品質が悪く、円滑にコミュニケーションが取れませんでした。

効果 「ホワイトクラウド ビデオカンファレンス」を導入し、映像・音声の品質が向上。今では、さまざまな研修や採用面接にも活用されるようになり、用途が大きく拡大しています。

課題 従来利用していた専用端末は、生産が終了してしまったこともあり、故障などのトラブルに対応することが困難でした。

効果 汎用性の高いタブレット端末なら、故障時にも修理や代替機の手配が容易。さらに、スピーカーやマイクなど周辺機器を用意する必要もなく、コスト面でもメリットがあります。

課題 ISDN回線を利用していた従来のビデオ会議は従量課金制。利用頻度が多かったため高額な通信費がかかっていました。

効果 インターネットやWi-Fi環境を新たに構築したことで通信費が定額となり、専用端末のレンタル費用、保守費用を含めて、コストを6割削減することができました。

導入の背景 ●●●●●▶ ビデオ会議の映像・音声の品質とコストの肥大化が課題

「教育」を基点に時代や社会のニーズに対応し、求められる人材を社会に送り出すための多彩な事業を展開するヒューマンホールディングス。人と社会の成長の輪を無限に広げ、活力ある社会づくりに貢献しています。事業戦略を深く共有し、全社員が同じ方向に向かって事業を推進するために、同社は以前からコミュニケーションを重視しています。その一環として10年前にビデオ会議システムを導入。北海道から沖縄まで、全国に展開する拠点を接続し、緊密なコミュニケーションを実践してきました。

「しかし、ISDN回線を利用するシステムのため、帯域が限られており、映像や音声が悪くなるのが頻りにありました。また、拠点に配備した端末の中には、生産が終了してしまい、故障が発生しても修理が受けられないものもあったのです。品質、故障リスクの面からシステム見直しの必要性を感じていました」と同社の内田 浩靖氏は話します。

加えて、コストの肥大化も課題でした。ビデオ会議システムを利用した会議はほぼ毎日行われ、通信費だけで月額数百万円もかかっていたのです。

選択のポイント ●●▶ タブレット端末でも利用できることを高く評価

課題を解決するために同社が導入したのが、ソフトバンクテレコムの「ホワイトクラウド ビデオカンファレンス」です。まず、評価したのが映像や音声の品質の高さに加え、クラウドサービスである点。高額な設備投資の必要がなくコスト削減につながると判断しました。次に専用端末だけでなく、タブレット端末を用いてビデオ会議を行える点も決め手となりました。「タブレット端末であれば、仮に故障してもすぐに修理したり、代替品を用意することができます。PCを用いた提案もありましたが、PCの場合はカメラやスピーカーなど、別の付

属機器を用意しなければなりません。そうした周辺機器が必要ないタブレット端末はコスト面でも魅力でした」と内田氏は話します。さらに、ソフトバンクテレコムはネットワークの手配や敷設まで一括対応することが可能。利用開始後も、サービスに関するお問い合わせ、機器・回線トラブルに一元的に対応します。「例えば、ビデオ会議システムベンダの場合は、ネットワークは自分たちで調達しなければなりません。それに対し、ソフトバンクテレコムは、インターネットからタブレット端末向けのWi-Fi環境まで一括で対応してくれたので、とても助かりました」(内田氏)。

